

# CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会  
宣教ニュース

N.123 - 2019年3月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



親愛なる会員、友人の皆さん、

今月、四旬節に入りますが、教皇フランシスコと共に、真福八端を心に、一歩前へ踏み出しましょう：

「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。」

「謙虚に柔和に応じること、それが聖であるということです。」（『喜びに喜べ』、74）そしてこれはまさに、聖フランシスコ・サレジオに触発されたサレジオの宣教師の、習慣的な反応

です。日々の生活の苦勞にもかかわらず - 文化的な違い、拒絶的な雰囲気、偽善、迫害 - ドン・ボスコの子である宣教師は決して打ち負かされません。カリスマから来る優しい親しみやすさを持っているからです。まさにこれが宣教師の召命を裏切り豊かなものにします。日本人サレジオ会員の最初の世代である尻枝正行神父のキリスト者、司祭としての召命誕生のかけには、興味深い逸話があります。あるサレジオ会修道士が、修道院で釘を盗もうとしている尻枝少年を見つけました。戦時中の苦しい時代、家族のために家を建てようとしている父親を助けたい一心でしたことでした。修道士は少年を罰しませんでした。友だちのように迎え入れ、少年のポケットにいっぱい釘を詰め込み、もう盗んではいけないよと諭しました。何か必要なものがあつたらいつでも来なさい、大歓迎だよと。いつも、謙虚な柔和さ、ドン・ボスコの慈愛をもって応じること。これがサレジオ会宣教師の際立つ特徴です。

*J. Basanes*

宣教顧問 ギジェルモ・バサニェス神父

## News

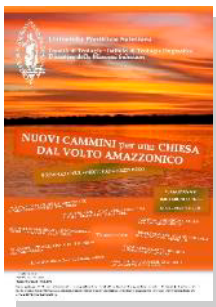
- 私たちは1月25日から27日にかけて、「世界宣教諮問会議」を開きました。参加者は、地域宣教促進コーディネーター、総本部宣教部門のメンバー、宣教のテーマに関わりのあるサレジオ大学の会員らでした。サレジオ会のさまざまな地域で行われている宣教促進について振り返り、成功した事例を分かち合い、前にしている挑戦について考察を行いました。私たちは第28回総会に提出する提案の起草を始めました。

- 総長と最高評議会は「サレジオ・ミッションにおけるボランティア活動の手引き - サレジオ宣教ボランティアのアイデンティティと方向性」を承認しました。この文書は2019年1月31日に正式に出されました。若者たちの間で宣教ボランティア活動を促進するための規範や指針を提供するこの文書は、各管区のため大いに役立つでしょう。

- 2月15日から17日にかけて、オーストリア（ウィーン）で地区会議が開かれました。オーストリア、フランス・ベルギー南、英国、イタリア - 中東（アルバニア、コソボ）の各管区で働く、プロジェクト・ヨーロッパの新たな15人の若い宣教師が参加し、分かち合いと振り返り、考察の時となりました。

- 教皇庁立サレジオ大学で、「アマゾン地域の顔をもつ教会の新たな道」と題するセミナーが開催されます。アマゾン地域におけるサレジオの存在について、アマゾン地域の人々、特に若者の福音宣教のために私たちが前にする挑戦、たどるべき歩みについて振り返る機会となるでしょう。

- 3月26、27日には、**宣教促進全国セミナー：「宣教・司牧の刷新」**がマドリッドで開催されます。宣教促進が管区のさまざまなプロジェクトの中心に位置づけられるなら、いかに使徒的ダイナミズムが生み出されるかを話し合う、大変意義深い取り組みになるでしょう。司牧、宣教促進の担当者が参加します。



キリスト者共同体の権利が認められるように



サレジオ会の宣教の意向

キリスト者共同体、特に迫害されている共同体が、キリストが共にいてくださることを感じ、またその権利を認められますように。

サレジオ家族は教会の心、中心にあつて、五大洲のさまざまな状況の中、使命を果たしています。中には教会が迫害されている状況もあります。迫害は宗教的原理主義のみならず、世俗主義による場合もあります。サレジオ会員・サレジオ家族が若者の教育者、牧者でありつづけ、交わりと福音をあかする勇気を生きるよう若者を養成しますように。



## 最後まで愛します：アントニオ＝セザル・フェルナンデス神父



**2**019年2月15日、ブルキナファソのブルグー県、ノハオは暑い日だった。トーゴのロメから来た三人のサレジオ会員が税関に到着した。ウアガドゥーグーの宣教地に行こうとしていた。同時に、武装したゲリラの集団がやって来た。ゲリラは五人の役人を殺害し、サレジオ会の車を制圧した。すでに年取った一人の修道者がそこにいた。彼らはその高齢の修道者だけを脇に連れて行く。低い声で何かを言い合う。その尊敬されている司祭は森の中へ連れて行かれる。三発の銃声。ゲリラたちだけが戻って来る。彼らはバイクの爆音を上げ、舞い上がる土煙を残して去って行く。

ブルキナファソの土に、サレジオ会員アントニオ＝セザル・フェルナンデスの遺体は横たわっている。金曜日、九つの時(午後3時)だった。アントニオ神父の聖金曜日。救い主のように3本の釘ではなく3発の弾、手と足にではなく腹に2発、そして頭に。キリストにとってカルワリオは旅路の頂点、父への「はい!」という応答、人類への献身の頂点であった。セザル神父は巡礼の旅の終着点にたどりついた。ドン・ボスコのサレジオ会員として歩んだ55年、司祭として46年、宣教師として37年、アフリカの地で、72年の生涯を終えた。主のため、そしてアフリカの若者のための愛の旅は終わった。ドン・ボスコは言っている。サレジオ会員が仕事のさなかのいのちを落とすなら、それは会にとり栄光の日であると。殉教という形でいのちをささげるなら、その栄光はどれほどだろう。

2月(25日)、教会はサレジオの殉教者の初穂である聖人たちを祝う：ヴェルシリアとカラヴァリオである。二人は第二の故郷となった土地の人々を愛した。その人々のためにいのちをささげた。この二人もまた、森の中に連れて行かれ、銃弾に倒れた。セザル神父は2019年の司祭殉教者の初穂である。2018年、暴力は教会の39人の司祭のいのちを奪った。

セザルはいつも一番になるのが好きだった。ドン・ボスコの盛んな支部をトーゴに創設した最初のサレジオ会員の一人だった。いつも一番でいたかった、イエスの目で見るときに。人に仕えるとき、最初の一歩を踏み出すとき、最後ではなく、一番でいたかった。「いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命をささげるために来たのである。」(マルコ10・44-45)

セザル神父の死を、スペイン、ポソブランコの家族や故郷の人々は大きな悲しみをもって受けとめた。サレジオ会の兄弟たちは、愛する兄弟を失い、喪に服している。セザル神父は管区の頼れる兄弟、アフリカ各地でドン・ボスコのカリスマをどのように文化受容させたらよいか知っていた。10年間、修練長を務めた。ブルキナ、トーゴ、ベニン、セネガル、マリ、ギニア、コートジヴォワール、そのほかの地の素朴なふつうの人々、若者たちは喪に服している。セザル神父は人々のもとを巡り、皆に善をなした。

ファウスティーノ神父が言ったように、「愛情、愛からささげられた人生の終着地でした……セザル神父は人生において実に豊かな実を結んだため、それは彼の死後も続くでしょう。」セザル神父はイエスの言葉を思い起こさせる：「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」(ヨハネ12・24) セザル神父のあかしは、いつまでも福音を告げ知らせる。その喜びあふれるサレジオ会員としての人生は、心を尽くして愛しながら、満ち満ちた幸せな人生を歩むようにという若者への呼びかけである。

ネット上で拡散している短い動画にセザル神父が残してくれた奉獻のあかしは、心を躍らせるものだ。彼の言葉は自然で飾らず、深い。自己贈与の人生を物語っている。

「私はサレジオ会員になって50年、終生誓願を立てています。皆さんに言えるのは、サレジオ会員として生きること、サレジオ会員の召命は、主の恵みです。終わることのない感謝に次ぐ感謝です。私がただ言えるのは、主から多くの良いものを頂いたということです - 若者との出会い、サレジオ会員になること、今ある私になることを学んださまざまな場所で出会った若者たち……今、私は感謝をささげます、私はこの召命を頂くにふさわしくないからです。ですから、主よ、本当にありがとうございます。この道に呼ばれていると感じている人たちに、それを真に実現してほしいと励ましたいと思います……簡単ではありませんが、会のために、若者のために奉仕できることは喜びです。」

サレジオの召命、宣教活動の中で主がくださった祝福、若者と共に、若者のために生きた恵みに、セザル神父は天国でも感謝をささげ続けている……そして今、歌っている：「殉教のしゅろの枝をくださり、ありがとうございます。感謝します!」



マルタン・ラサルト神父, sdb

## サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエールイジ・カメローニ神父



### 福者アレクサンドリーナ＝マリア・ダコスタ(1904-1955)

ポルトガル人、サレジアニ・コオペラトリー会員、聖体の神秘家。アレクサンドリーナは、聖なる者になることへのあこがれを次のように言い表している：「おお、我がイエスよ、あなたの復活は、私の心が憧れ求めるあの愛と恵みへと、この魂を引き上げてくれます。私は聖なる者になりたい! ……私は苦しみましょう、虚栄、支配への渇き、慎みの無さ、お金の乱用がこの世から消えるように。私は苦しみましょう、宣教の働きが広がり、イエスの言葉があらゆるところに広められるように、唯一の真理……私の願いは、人々が聖なる者になることです。」